ビジネスインタビュー ヒットの兆し Made in Gifu

主役はいつでも子どもたち

株式会社向伸　代表取締役　舩渡　美由紀さん

岐阜市北島と本巣郡北方町で、小中学生学習塾、パソコン・スマホ教室、パソコン修理業を展開する株式会社向伸。新型コロナウイルスの影響で大きな打撃を受けている学習塾業界において、次世代を担う小中学生への学習支援、指導にこれまでにも増して全力で取り組む向伸学館の舩渡美由紀さんに、子どもたちのやる気を最大限に引き出す秘訣をお聞きします。

私が塾を引き受けます

創業は、平成20年。当時勤めていた会社が社員教育を兼ねて岐阜市正木に開校したパソコン教室が始まりでした。舩渡さんは立ち上げから運営までを全権まかされていました。

まもなくパソコン教室の空き時間を利用し、学習塾も開校しました。小学生を対象としたクラスからスタートし、保護者からの強い要望で中学生クラスを増設。少しずつ規模が大きくなり本当にやりがいを感じていました。

そんな中、突然、会社が解散になり学習塾は閉鎖の危機に陥りました。しかし中学3年生も在籍しており、舩渡さんは『受験で不安になっている生徒を見捨てられない』と、平成22年、パソコン教室も含めた教室部門を事業譲受し独立することを決心しました。

「自分で調べ、自分で考え、学ぶ」を教えます

舩渡さんの指導は、授業のなかで一度に全部解説するのではなく、子ども達が現時点で持っている力を大切にし、その子が考えられるように少しずつ丁寧に「ヒント」を出していきます。これは教える側にはとても手間がかかることですが、子どもたちが自分で調べ、自分で考え、学ぶ姿勢を身に着けることが真の力をつける秘訣だと考えます。

「子どもたちは皆、理解するスピードや分からないポイントが違います。全部が全部、わからないのではなく、自分の力で解ける部分もあるので、その子の力を認めてあげることがやる気に繋がることに気が付きました。ヒントを最小にすることでその子自身に考えさせ、『先生にヒントはもらったけど、自分でも考えた、そして自分でできた！』と生徒自身に自信がつき、さらに能動的に学習に向かえるように変わってきます」

全ての子どもが持っている一生懸命さ、素直さを大事にしてあげたいと、舩渡さんは優しく微笑みます。

コロナ禍において、いち早く「オンライン授業」へ

向伸学館では、第1回目の緊急事態宣言時、保護者の心配を考え、いち早く「オンライン授業」に踏み切りました。

その準備として、オンライン授業に対応したパソコンの貸与や、家庭のパソコンにも対応できるように設定するなど、すべての生徒が平等に授業を受けられる環境を整えました。また、生徒からの質問に対して、その場でダイレクトに指導を行うことができる『双方向型のオンライン授業』を行うため、そのツールを使いこなせるまで1対1の練習を行いました。

「その結果、多くの保護者の方々から『子どもがパソコンの前で、普段より真面目に勉強しているのが本当にありがたかった』とのお声をいただくことができました」

コロナ禍での大きな収穫でした。

手探りで始めたオンライン授業でしたが、このスタイルにも自信がついたと笑顔が膨らみます。

また、オンライン授業は学校の休校中も毎日開催しました。

「ほぼ全員が時間より前にパソコンの前にスタンバイしていました。自分以外の仲間が画面の中にいるということが、生徒たちの勇気や希望に繋がったのではないかと強く感じました」

生徒たちにとっては、学校に行けない、外に行けない、友達にも会えない、部活動にも行けないなどストレスを抱えた中で、塾のオンライン授業の時間が、家族以外の人との繋がることのできる、温かい貴重なひとときでもありました。

「今の子どもたちは行事がなくなったり、短縮されたり、楽しい思い出が少なく、しかも、休校が続く中で勉強は遅れていき、やらなければならないこと、進めていかなければならないことが多くなるばかり。そんな苦しい状況の中で子どもたちは本当に頑張っていると思います」

――もっと応援したい。

舩渡さんは、そう想い続けています。

一人で悩まず考えず、ここに来よう

塾での授業が再開できるようになり、感染防止に気を配ることに子どもたちが安心して学べる場であるよう、努めています。また、休校の長期化で懸念される学習の遅れをカバーする対策にも万全を期しています。

その取り組みの一つが「学ぶ時間を増やす」ことでもありました。

「ほとんどの子どもに『もっと勉強が出来るようになりたい。認めてもらいたい』という気持ちがあります。それがあれば、必ず追いつけます。苦手な科目やわからないところは、時間はかかるかもしれませんが、わからなくなってきたところまで戻って、そこからやり直しができます」

そのために必要なのは「学ぶ時間」。舩渡さんは、以前から休塾でない限り、毎日通える授業体制を作っています。

「待ちきれなくて授業が始まる1時間以上前から登塾する生徒もいます。席が空いていれば土曜日に2コマの指導も受けられます。学校の宿題が難しい、自分一人では解けない、と宿題が億劫になりがちの生徒には、塾で学習したことを定着させるために学校の宿題をしても良いということにしています。家で一人で悩むよりは、と毎日通塾する生徒もいます」

そんな「学び放題」のクラスは、コロナ禍の今、子どもたちの強い味方です。

キラキラした目を増やしていくことは私の生き甲斐です

「最初は分からない、出来ない、と辛い顔をしている生徒たちが、少しずつ、少しずつ理解出来るようになってくると、姿勢がかわってきます。例えばどんどん前のめりになり、打てば響くような返事をするようになり、そして『僕は出来る！』とキラキラした目にかわっていくんです。そんな子どもたちが教室にいる限り、その瞬間はずっと続きます」

舩渡さんと子どもたちの間には、互いに絶対的な信頼が寄せられ、そこに「喜びの共有」がうまれています。

「自ら学べる子どもたちに育てたい、自ら学べるよう引き上げてあげたい。そんな想いは誰にも負けません」

舩渡さんは、これからも変わらず子ども達を全力で応援し続けます。